

Ⅲ 実践事例

受入事業(集団宿泊学習)

【実践事例1】鹿児島市立西伊敷小学校 小学5年 1泊2日 本館

《活動プログラム:野外活動及び自然観察「キャンプI(テント設営・撤収)」》

事前打合せ【10月8日(水) 学年会】

【打合せ内容】

- 集団宿泊学習のねらいの確認
- 事前指導展開案の確認
- 子供の実態,学校の要望確認
- 来所前の学習(道徳・家庭等)

【ポイント!】

- 集団宿泊学習のねらいと,当センターのねらいから,「助け合い・協力」を本活動の重点とすることを確認。
- 事前学習当日,同じテントの子供で,まとまって座ることを確認。
- 宿泊学習当日までに,道徳の実践と家庭での布団たたみや料理等に取り組むよう依頼。

事前指導(全体指導)【10月17日(金) 5校時】

過程	活動の内容	指導上の留意点等( は,活動の様子・子供の反応等)
導入 (5)	1 自己紹介等を行う。 2 アイスブレイクを行う。 3 めあてを確認する。 友達と協力して生活するためには,どのようなことが大切なのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ テント泊グループで集合させる。 ○ 当日と同じグループで編成することで,相互理解を深めようとする気持ちを高めさせる。 ○ 西伊敷小学校の活動プログラムに合わせた場面を紹介することで,集団宿泊学習に対する見通しをもたせる。
展開 (25)	4 話合いが必要な場面を確認する。 ・集団生活 ・テント設営【写真1】	<ul style="list-style-type: none"> ○ センターでの生活について,プレゼンを使って説明し,見通しをもたせる。 (三つのきまりと三つの管理) ① 青少年研修センター施設の紹介 ② 三つのきまり ・ あいさつ:他団体,所員,食堂,清掃員+α友達 ・ 10分前行動:ノーチャイム ・ 優しさのリレー:トイレのスリッパ,退所点検(布団) ③ 三つの管理(体調・持ち物・資源) ※ 自分の持ち物の整理整頓,布団の片付け,料理の手伝いは,集団宿泊学習までに各自で実践するように伝えた。 ○ テント設営について,一部の子供に交代で体験させながら説明する。 ○ どうしたらできたか,どうしてできなかったか考えさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生活の仕方の説明を聞くことで,見通しをもって当日までに整理整頓や調理などに取り組む意欲を高めることができた。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>【写真1 テント設営体験の様子】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>実際に子供が体験することで,協力が必要な場面を理解できた。</p> </div>

終末 (15)	<p>5 疑問や不安を解消する。</p> <p>6 まとめを行う。</p>	<p>○ 子供・保護者からの質問に答えることで、当日への不安を軽減する。</p> <p>○ まとめを行うことで、当日への実践目標を設定し、意欲をもって当日を迎えられるようにする。</p> <p>※ 学校からの依頼で、テントを一張、事前練習用に貸し出した。</p>	<p>質問により疑問が解消され、センターでの活動を楽しみにする様子がみられた。</p>
------------	---------------------------------------	---	---

事前学習【10月20日(月)・24日(金)】

特別の教科 道徳
「折れたタワー」(相互理解, 寛容)

集団宿泊学習【10月28日(火)~30日(木)】

- 【キャンプI(テント設営・撤収)】**
- ねらい確認(協力)
 - 活動内容の確認
 - 安全指導
 - 振り返り

- 【活動の実際】**
- 事前指導をもとに「協力」をキーワードにしてテント設営の手順とのねらいを再確認した。
 - 協力することを意識しながら取り組むことができた。
 - ※ 事前学習後に学校へ貸し出したテントで、張り方の体験をしてから入所した。



【写真2 テント設営の様子】

- 【活動の様子や子供の感想】**
- 1 活動の様子 [写真2]
- ポール立て等,安全にできるように声を掛け合いながら活動する様子が見られた。
 - 役割分担しながら活動できた。
 - 自分にできることを考えながら進んで取り組む様子が見られた。
 - よく考え,手順を話し合いながら,テント設営を進められた。
 - 分からないことがあったときは,自分から進んで聞きに来ることができた。
- 2 子供の感想
- 協力すると,テントを立てるなどどんなに難しいこともできると思った。だから,協力は大切だと気付いた。これからもみんなで協力していきたい。
 - 一人ではできないことも,友達とみんなでやればできるという「協力」の大切さを知った。
 - みんなで協力しないとできないこともあるんだなと思った。
 - みんなで活動し,協力し合う大切さを知った。みんなと協力すると楽しい,おもしろい。笑いながら楽しんで活動できた。

- 集団宿泊学習を振り返って
- 今後の学校生活で生かすこと

子供の変容に関する引率者の感想

- グループ活動や係・委員会活動において、自主的・協力的に取り組む姿が多く見られるようになった。
- 任された仕事をしっかりできるようになった。
- 今まで他人事だった清掃活動等のボランティア活動に、進んで参加する子供が増えた。



子供の感想

- 集団宿泊学習では、フィールドアスレチックやカレー作り、テント立てなどで協力して楽しい思い出ができた。このたくさん楽しかったことや学んだこと、失敗したことを生かしていきたい。
- 協力が必要な場面がたくさんあり、上手かったことやいかなかったこと、楽しかったこと、大変なこともたくさんあった。これからの生活では、「時間を守ること」「協力すること」を意識しながら生活していきたい。
- 集団宿泊学習を通して分かったことは「協力」だ。協力すれば、ほぼ上手くいくと思っている。わたしはこれまで協力は少ししかできていなかったが、集団宿泊学習を通して「人ってこんなに協力できるんだ」「こんなにも上手くいくことがあるんだ」と思った。みんなで協力してできたときは、達成感がすごくて、とても楽しかった。

【実践事例2】 鹿児島市立伊敷台小学校 小学5年 1泊2日 本館
 《活動プログラム:野外活動及び自然観察「野外協力ゲーム」》

事前打合せ【10月1日(水):学年会】

【打合せ内容】

- 学校が立てたねらいの確認
- 流れの説明
- 子供の実態把握
- 学校の要望確認



【ポイント!】

- プレゼン資料を使って、子供・職員に対して施設の紹介をすることを確認。
- 代表の子供4人が布団のたたみ方を実際に見せることを確認。
- 質疑応答の時間を十分確保することを確認。

事前指導(全体指導)【10月10日(金):3校時】

過程	活動の内容	指導上の留意点等( は、活動の様子・子供の反応等)
導入 (5)	1 自己紹介等を行う。 2 学習の見通しをもつ。 3 めあてを確認する。 友達と協力して生活するためには、どのようなことが大切なのだろうか。	○ 野外協力ゲームのグループで集合する。 ○ 本時の事前学習で行うことを確認し、児童が見通しをもち学習に臨めるようにする。 ○ 伊敷台小学校の活動プログラムに合わせた場面を紹介することで、集団宿泊学習に対する見通しをもたせる。
展開 (25)	4 話合いが必要な場面を紹介する。 ・野外協力ゲーム ・集団生活	○ 野外協力ゲームの内容について説明し、実際に取り組ませる。 ① 活動の紹介(活動名・課題数・制限時間) ② UFOの実際 [写真3] ※ どうしたらできたか、どうしてできなかったかを考えさせる。 ○ センターでの生活について、プレゼンを使って説明し、布団を実際にたたませる。 ① 青少年研修センター施設の紹介(プレゼン資料) [写真4] ② あいさつ:他団体,所員,食堂,清掃員+α友達 ③ 10分前行動:ノーチャイム ④ 優しさのリレー:トイレのスリッパ,退所点検(布団) ⑤ 布団のたたみ方の実践 ※ 自分の持ち物の整理整頓,布団の片付けは,集団宿泊学習までに各自で実践するように伝えた。
終末 (15)	5 疑問や不安を解消する。	○ 子供・保護者からの質問に答えることで,当日への不安を軽減する。

成功したグループからは、「息を合わせた」という意見が出された。失敗したグループからは、「タイミングが合わなかった」という意見が出された。



【写真3 UFO実演の様子】



【写真4 施設紹介の様子】

実際に布団をたたむところを見ることで,布団のたたみ方を理解することができた。

様々な質問をすることで,疑問が解消され,センターでの活動を楽しみにする様子が見えた。

6 まとめを行う。 ① 個人で思考 ② 全体で共有	○ 「コミュニケーションをとる。」「友達の考えを受け止める。」「前向きに自分の考えを伝える。」など、予想を生かしたまとめを行うことで、当日の実践目標を設定する。
---------------------------------	--

事前学習【10月21日(火)・11月14日(金)】

特別の教科 道徳

「折れたタワー」(相互理解,寛容),「古いバケツ」(友情,信頼)

集団宿泊学習【11月19日(水)~20日(木)】

【野外協力ゲーム】

- 野外協力ゲームのねらい確認
- 活動内容の確認
- 安全指導
- 振り返り

【活動の実際】

- 「協力」をキーワードに、ゲームのねらいを再確認することができた。
- 協力することを意識しながら様々な課題に取り組むことができた。



【写真5 知恵の竹ざお】 【写真6 思考の塔】



【写真7 ゴール後の話し合い】

【活動の様子や子供の感想】

- グループ内でお互いにアイデアを出したり,アドバイスをしたりするなど,声を掛け合いながら活動していた。
- 振り返りの中で,協力とは何だと思ったかについて,以下のような意見が出た。
 - ・ みんなで声をたくさん掛け合う。
 - ・ 支えあい,助け合い,寄り添うこと。
 - ・ みんなと一緒に行動すること。
 - ・ 声を掛け合ったり,案を出して行動し,試したりすること。
 - ・ 楽しむこと。
- 自分のよさ,友達のよさなど,新たに発見したことについて尋ねると,以下のような意見が出た。
 - ・ 自分のことより,他の人の意見を優先してくれた。
 - ・ いつもはあまり意見を言わないのに,たくさんアイデアを出してくれた。
 - ・ 強く言い過ぎてけんかになりそうだったけど,場を和ませてくれる友達がいた。[写真5~7]

事後学習【11月24日(月)】

総合的な学習の時間「宿泊学習を振り返って」

- ・ しおりを使い,宿泊学習の振り返り
- ・ 学んだことについての意見交換

子供の変容に関する引率者の感想

- 子供たちはきつただろうが,乗り越えて学ぶことができたと思う。1日目にできなかったことを振り返り,2日目に生かそうとしていた。
- 学校では,協力することについて学んだことを生かし,委員会活動などに積極的に参加するようになった。

子供の感想

- 仲間がいることの大切さ,協力することの大切さを知ることができました。
- 協力とは,心を一つにすることだと思いました。

【実践事例3】 始良市立始良小学校 小学5年 1泊2日 本館泊
《活動プログラム:野外活動及び自然観察「野外炊事」》

事前打合せ【11月5日(水):学年会】

【打合せ内容】

- 調査研究についての説明
- 集団宿泊学習における学校のねらい確認
- 事前指導展開案の確認
- 子供の実態,学校の要望確認

【ポイント!】

- 学校の要望から,事前指導については,特に野外炊事を重点的に行うことを確認。(役割分担・協力・助け合い)
- 説明用スライドを活用し「青少年研修センターでの生活について」や「きまりについて」を理解させることを確認。

事前指導(全体指導)【11月13日(木):6校時】

過程	活動の内容	指導上の留意点等( は,活動の様子・子供の反応)
導入 (10)	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 友達と協力して生活するためには,どのようなことが大切なのだろうか </div> <p>2 集団宿泊学習のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野外炊事のグループで集合し,当日に向けての気持ちを高めさせる。 ○ 事前学習を行う意味(当所の紹介やきまり,活動プログラムを知り,見通しをもち,安心して参加してもらいたい)を伝えることで不安解消と本時の意欲につなげる。 ○ 集団宿泊学習のめあてについて確認する。
展開 (25)	<p>3 センター紹介及び集団宿泊学習の留意点等を確認する。</p> <p>4 活動プログラムの内容を知る。 ・ 野外炊事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドを使ってセンターの紹介やきまりについて説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ① 施設の紹介 ② 三つの管理 ③ 10分前行動・5分前集合 ④ やさしさのリレー・退所点検 ⑤ 布団のたたみ方 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動プログラムの内容を紹介し,集団宿泊学習に対する見通しをもたせる。 <p>[野外炊事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 野外炊事の役割分担 ② 係での連携,協力 ③ 野外炊事で気をつけること <p>※ 当日までにやっておきたいこと</p>
終末 (10)	<p>5 集団宿泊学習について</p> <p>6 次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団宿泊学習についての質問等を発表させる。 ○ 次の時間の活動内容を伝える。



特にセンターのきまりの説明では,一斉に集中してメモをとる姿が見られた。

みんなでおいしいカレーを作り,一緒に食べるためには,助け合い,協力,コンビネーションが大切であることや,係の仕事内容を把握していた。

疑問や不安に思っていたことを,質問したことで,見通しをもつことができ,安心している表情が見られた。

集団宿泊学習【11月26日(水)・27日(木)】

家庭科 「クッキングはじめての一步, 食べて元気に, できるよ家庭の仕事」

〔野外炊事〕

- めあての確認「協力しておいしいカレーを作ろう」
- 自分ができる協力について
- 安全指導
- 役割分担と係ごとの活動確認
- 三つの係の連携
- 振り返り

〔活動の実際〕

- 導入でめあての確認から, 自分にできる協力について考え, 話し合うことで協力について意識しながら活動に取り組むことができた。
- 事前学習を振り返りながら, 協力, 連携することの大切さを再確認することができた。
- 導入で自分の果たすべき役割にしっかり取り組むことが協力にもつながることを再確認したことから, 三つの係(食材, 食器, かまど)が, 活動内容と役割を理解し, スムーズに活動することができた。



【写真8 野外炊事の様子】



【写真9 振り返りの様子】

〔活動の様子や子供の感想〕

- 事前学習や導入の説明を振り返りながら, 米の水量, 食材を切る厚さ, 炊き上がりのサインなどについて声を掛け合い, 互いに確認していた。
- 振り返りの中で, 自分ができた協力, 友達が見せてくれた協力について話し合う中で, 次のような声を聞くことができた。
 - ・ 自分の係の仕事が終わって, 友達の手助けをすることができました。
 - ・ 友達が「何かすることない?」と聞いてくれたり, 「こんなふうに切ったらいいよ」とアドバイスしてくれたりしました。
 - ・ いろいろな協力の仕方があることがわかりました。

【写真8・9】

事後学習【12月1日(月)】

- 総合的な学習の時間「集団宿泊学習をふりかえろう」
 - ・ 集団宿泊学習で「学んだこと」「感じたこと」「気付いたこと」について
 - ・ これからの学校生活でどのように生かしていくかについて

子供の変容に関する引率者の感想

- 宿泊学習後, 学校で振り返りを行ったことで, 改めて学びを学校生活に生かそうという意識が高まった。
- 学校生活の中で子供たちが主体的に活動できるようになった。

子供の感想

- 自分のことは, 進んで自分でできるようになってきた。
- 話合いの場面で, 落ち着いて他の人の意見を聞くことができるようになった。

主催事業

【実践事例】「悠遊学舎わくわくキャンプ」

サマーキャンプ 7月25日(金)～30日(水)5泊6日

ウインターキャンプ 12月25日(木)～27日(土)2泊3日

(参加者 小学生5年10人,6年10人 中学生1年4人,2年3人,3年1人 計28人)

はじめに(事業を終えての感想:自由記述アンケートより)

【参加者】

- 友達との関わり方が変わった。
- 仲良くなるのが得意になった。
- あきらめず挑戦できるようになった。
- これからもしっかり言葉をはきはきと、勇気をもってしゃべる。
- 自分からできることが増えたから自分は成長できていると思う。
- 個性は、仲間全員が持っていることを知れた。



【保護者】

- 発表を聞いて、思う気持ち、思われる気持ちを大きく感じられたように思います。
- この数日間で、自分で考え、自分がよいと思うことを言葉に出せている!と、とても成長を感じました。
- 人との関わりや尊重し合う大切さを学んだようです。

参加者は体験を通して非認知能力の高まりを実感し、保護者は活動報告会での発表を通して子供の成長を感じることができたことが分かる。このような感想に至った事業の具体について、以下に述べる。

事業体系とテーマ

子供いきいき体験活動

宿泊等を伴う異年齢集団の中で、生活体験や集団活動、自然体験活動等を通じて、豊かな人間性、自ら考える力などの「生きる力」を育成する。

悠遊学舎わくわくキャンプ ～サマーキャンプ～・～ウインターキャンプ～

対象：小学5～中学3年，内容：異年齢での生活体験，自然体験，集団活動

悠遊学舎 夏のわくわくデイ

対象：小学3・4年

内容：自然をテーマにした体験活動

悠遊学舎 秋のわくわくデイ

対象：小学1・2年

内容：自然をテーマにした体験活動

自然体験活動

テーマ「わたしが創る，わたしの未来」



【図2 悠遊学舎わくわくキャンプの構想】

事業体系及びテーマ(前ページ [図2])を踏まえ、事業の趣旨を次のように設定した。

【事業の趣旨】

かごしまの恵まれた自然環境の中での自然体験活動を通して、参加者が達成感や満足感、仲間とつながる良さを味わい、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育む機会とする。

(1) 「かごしまの恵まれた自然環境」を体感するために、南薩少年自然の家と連携し、青少年研修センターにて山林型、南薩少年自然の家にて海浜型の自然体験活動を、グループワークを通して体験する。

(2) かごしまの自然・産業・歴史・文化等について、地域等の協力団体と連携しながら学び、郷土の良さを実感するとともに、これからの生き方・考え方に生かそうとする。

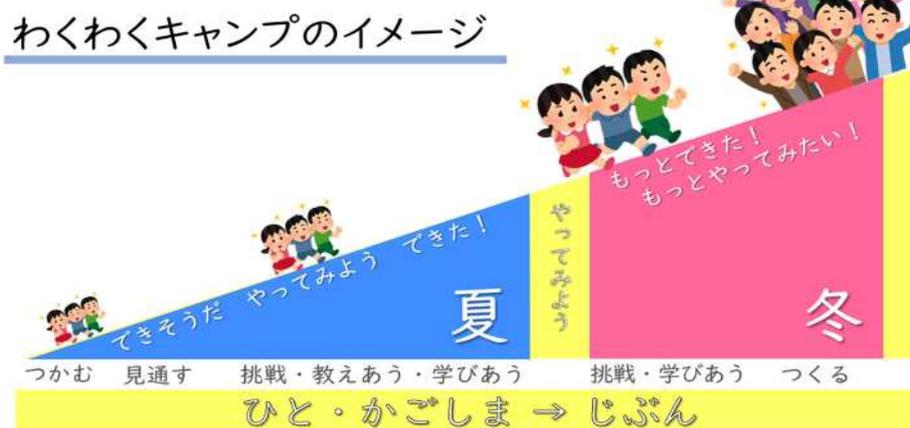


図3 「悠遊学舎わくわくキャンプのイメージ」

[図3]のように設定することで、「イメージ」のように、参加者が学び合いや教え合いを通して非認知能力を育成できると考えた。

日程

青少年研修センター		南薩少年自然の家				青少年研修センター		青少年研修センター		
6/29(日)	7/25(金)	26(土)	27(日)	28(月)	29(火)	30(水)	11/30(日)	12/25(木)	26(金)	27(土)
起床, 朝のつどい, 朝食										
事前説明会	出会いのつどい オリエンテーション	テント片付け	準備 バス移動	カヌー	ものづくり	後片付け	事前研修会 かごしまの素晴らしさを学ぶ	オリエンテーション	吉田ハイキング	後片付け
	かごしまの素晴らしさを学ぶ	ものづくり			準備 バス移動	かごしまの素晴らしさを学ぶ		かごしまの素晴らしさを学ぶ		かごしまの素晴らしさを学ぶ 活動報告会
解散		説明	南薩少年自然の家着			発表会	ウインターキャンプの計画を立てる			
昼食										
	テント設営	アクティブ大作戦	入所式	サイクリング	話し合い活動			かごしまの素晴らしさを学ぶ	吉田ハイキング	
	野外炊事		かごしまの素晴らしさを学ぶ						オリジナルクッキング	
	キャンプファイヤー		タベのつどい, 入浴, 洗濯	天体観察	ナイトワーク			話し合い活動		
		出発準備	振り返り, 就寝準備, 就寝		話し合い活動			振り返り, 就寝		

全日程の活動プログラムを構成するにあたり、下の点に留意した。

- 鹿児島島の自然・産業・歴史・文化等について学ぶ場を「かごしまの素晴らしさを学ぶ」として、講師による講義やワークショップを実施する。
- 夏は「海とわたし」、冬は「山とわたし」をテーマとした内容を実施する。
- それぞれの事業前に「事前説明会」「事前研修会」を設定することにより、十分な事前指導と意欲の喚起や継続を図る。

活動の実際

活動のねらいと活動内容

ねらい等	活動内容	
【事前説明会】		
参加者の実態を把握するとともに、参加者間の相互理解の素地を育む。	事業説明 施設見学 アイスブレイク[写真10] 保護者面談	【写真10 アイスブレイクの様子】
【サマーキャンプ】		
1日目：青少年研修センター 新しい環境や仲間と出会い、不安を共有しながら安心できる場をつくることで、他者とつながる第一歩を踏み出す。	出合いのつどい オリエンテーション 講師講話 [写真11] テント設営 野外炊事 キャンプファイヤー 振り返り	【写真11 講話の様子】
2日目：青少年研修センター 自然体験活動を通して仲間と協力し合い、互いの役割を尊重しながら活動する楽しさを味わう。	テント撤収 創作活動 野外活動 [写真12] 振り返り	 【写真12 野外活動の様子】
3日目：南薩少年自然の家 困難な活動に挑戦し、失敗してうまくいかない経験を通して粘り強く取り組む力を育てる。	バス移動 自転車点検・試乗 講師講話・ ワークショップ [写真13] 天体観察, 振り返り	 【写真13 ワークショップの様子】
4日目：南薩少年自然の家 自ら考え行動する機会をもち、自分の意見や感情を言葉や態度で表すことに挑戦する。	カヌー体験 講師講話・ ワークショップ サイクリング [写真14] フィールドワーク [写真15] 振り返り	 【写真14 サイクリングの様子】
5日目：青少年研修センター グループで協力しながら、共通の目標に向かって取り組み、達成感やチームの一体感を得る。	創作活動 バス移動 話し合い活動 野外炊事 [写真16] 振り返り	 【写真15 フィールドワークの様子】
6日目：青少年研修センター 成長した自分に気づき、自分の良さを実感する。	報告会準備・リハーサル 活動報告会 別れのつどい	 【写真16 野外炊事の様子】
【事前研修会】		
ウインターキャンプに向けて参加者の実態を把握する。	事業説明, アイスブレイク 活動報告, 話し合い活動	

【ウインターキャンプ】		
<p>1日目:青少年研修センター 仲間と安心して活動できる雰囲気をつくり,かごしまの自然の恵みや良さを感じ取る。</p>  <p>【写真18 創作活動の様子】</p>	<p>出合いのつどい オリエンテーション・ アイスブレイク 講師講話・ワークショップ [写真17] 創作活動 [写真18] 話合い活動 振り返り</p>	 <p>【写真17 講話の様子】</p>  <p>【写真19 ハイキングの様子】</p>  <p>【写真20 野外炊事の様子】</p>  <p>【写真21 活動報告会の様子】</p>
<p>2日目:青少年研修センター 仲間と協力しながら挑戦する中で,自分の役割を果たし,達成感・満足感を味わう。</p>	<p>ハイキング(遠行) [写真19] 食材買い出し 野外炊事 [写真20] 活動のまとめ,振り返り</p>	
<p>3日目:青少年研修センター 自己の成長を見つめるとともに,仲間へ感謝し,これからの生活に生かせるようにする。</p>	<p>まとめ・振り返り 報告会準備・リハーサル 活動報告会 [写真21] 別れのつどい</p>	

指導上の留意点

【活動の進め方】

- 全ての活動は参加者自身で進めることを基本とする。
- 活動をグループ単位で行い,参加者全員が必ず活動に関わるようにすることにより,体験活動の中で「できた」を多く味わうことができるようにする。

【事前指導】

- 活動の目的を集団による目標達成であることを明示し,参加者全員の思いを踏まえた目標の設定を行うとともに,どのような活動になり,どのような準備が必要か見通しをもつような問いかけを行うことにより,主体的な関わりを促す。

【活動中】

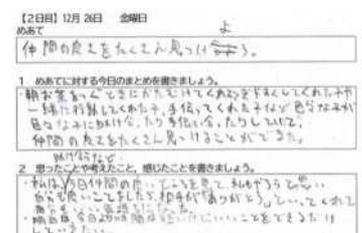
- 話合いなどが停滞する際には,所員が関わり,参加者一人一人の思いを言語化し,他の参加者に伝わりやすくするなど,受容と共感の視点で支援を行う。
- チャレンジングな活動は,指導者がリフレーミングによりポジティブ思考に捉えられるようにする。

【振り返り】 [写真 22]

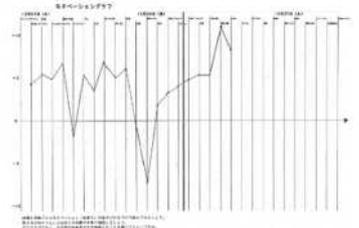
- 各活動や一日の終末においては,できたことを指導者が言語化して伝えたり,仲間のよさを伝え合ったりすることで,他者からの評価を味わえるようにする。
- 「『頷きながら,同意・肯定しながら』聞く」を指導する。
- 一日の振り返りや活動報告会では,ワークシート [図4] を活用し,経験したことや学んだことを振り返り,自身の行動や思考を見つめ直し,そこから意味や新たな気付きを見付け,次の学び(翌日のめあて)や成長につなげるようにする。
- モチベーショングラフ [図5] を活用し,活動に対する気持ちの動きなどを把握し,直接聞き取りなどによって実態把握を行う。



【写真22 振り返りの様子】



【図4 ワークシート】



【図5 モチベーショングラフ】

活動内容は,海・山といった鹿児島豊かな自然を題材にした講義や体験活動,野外炊事や創作活動,ハイキング等で構成され,参加者が「知る・考える・体験する」ことを往還しながら学べるよう工夫した。また,活動ごとに明確なねらいを設定し,職員が共通理解のもとで参加者に寄り添った支援を行ったことで,安心して挑戦できる学習環境を整えることができた。

参加者の変容(自由記述式アンケートより)

事業終了時にアンケートを実施し、「新しい自分への気付き」などを自由記述で求めたところ、以下のような記述がみられた。

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="radio"/> 進んで自分からできる | <input type="radio"/> 何でもやってみたいと思える |
| <input type="radio"/> 自分から行動する | <input type="radio"/> やればできることがたくさんある |
| <input type="radio"/> 前向きに挑戦する | <input type="radio"/> 人のよいところが見つけれられる |
| <input type="radio"/> 積極的に声かけができる | <input type="radio"/> 誰にでも話しかけられる自分 |
| <input type="radio"/> いろんな人に話しかけられる | <input type="radio"/> みんなにゆずることができる |
| <input type="radio"/> 進んで協力できる | <input type="radio"/> 相手のことを思いやれる |
| <input type="radio"/> 人に優しくできる | <input type="radio"/> 困っている人がいたら助けられる |
| <input type="radio"/> 嫌なことができる | <input type="radio"/> 失敗してもくじけず進める |
| <input type="radio"/> 自分のことは自分です | <input type="radio"/> 時間管理できる |

主体性やコミュニケーション能力、協働力、自立性といった非認知能力と認められる記述が目立っている。また、「進んで」「自分から」という表現が多く見られた。

これらの記述から、自己概念の変容が起きていること、行動レベルだけでなく、自己認識の変化が起きていることが分かる。

このことから、本事業が「自己肯定感・自己効力感の形成」に大きく寄与できており、さらに、成長の言語化が起きている点は特筆すべき成果であるといえる。

まとめ

本事業を通して見えた、青少年社会教育施設の事業の価値は次のとおりとなる。

- 体験型・負荷のある活動は継続価値が高い。
- 指導者との距離の近さは、社会教育施設ならではの強みである。
- 生活場面での支援・声かけは教育的価値が高く、生活指導が確実に機能する。
- リーダー体験への発展的可能性が高い。
- 身体的達成と社会的達成の両立ができる。
- 学校教育では得にくい「関係性の学び」を補完できる。
- いじめ防止・包括的教育の観点でも価値が高い。

本事業は、鹿児島島の自然や地域資源を生かした体験的な学びを通して、参加者一人一人の成長を促すとともに、人と人との関わりの中で生きる力を育む意義ある事業である。今後も内容の充実と改善を図りながら、継続的に実施していきたい。